

河川流量の増加でアユ資源を有効に使える！？

研究分野 漁場の環境を守る

ねらい

- 庄川では河川流量の減少、低水護岸や砂利採取の河川工事などにより、アユの隠れ場や休息の場である淵の喪失並びに平均水深が浅くなることによって、アユ網漁の漁獲圧力が高まったと推察されています。
- このため、本研究では人為的な理由で流量が少なくなった河川（区域）において、流量の増加がアユの資源管理に及ぼす影響の一つを明らかにしました。

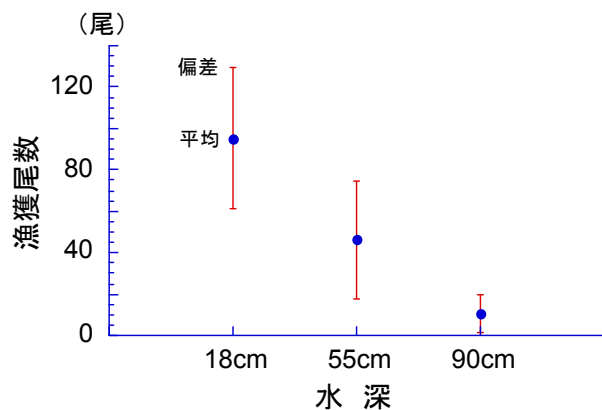
成果

- 投網とテンカラ網では水深 90cm での漁獲尾数は水深 18cm に比べて有意に少ないものでした。また、投網では水深 55cm での漁獲尾数も水深 18cm に比べて有意に少ないものでした。これは両方の網において打網により水面に網が達してから池底に到達するまでの時間が水深が深いほど長くなるため、深い水深では網に気づいて逃げるアユの数が多くなるためと考えられました。
- この試験結果から、漁獲圧力の減少は基本的にアユの生息環境（水深）の改善によっても達成が可能であると判断されました。
- 河川では流量が増えると平均水深も深くなります。これらのことは、庄川のようにアユ漁場の流量が人為的に減少し、かつ網漁が行われている河川では、夏季の間だけでも河川流量を増加できれば、あるいは淵などの深みを各所に造成できれば、アユの漁獲圧力の減少につながり、アユ資源を長期間に渡り有効に利用できることを示唆しています。

活用

国土交通省が主催する委員会や漁協が行う河川環境に関する勉強会・講習会などで本成果を発表してその改善策を提言し、河川環境の改善に役立ててもらっています。

（詳しくは日本水産増殖学会誌 51（2）号に掲載されています）



飼育池で水深別に投網で漁獲されたアユの尾数

研究実施期間 平成13年度～平成15年度
問い合わせ先 水産試験場 (076-475-0036)